

種文学賞 令和五年第二回目 作品集 下巻

令和五年第二回目の種文学賞は、

・小学三～四年生の部「お気に入り場所」

・小学五年生以上の部「あなたは戸堂とどう布ふ根ね田た根ね市民しみん」

というお題で作品をつのり、最終的に全十四名による力作がそろいました。

この下巻では、小学五年生以上の部の作品のうち、上巻で紹介できなかつた残りの作品を発表します。

目次

	〈小学五年生以上の部〉	※小六の一部～中学生の作品
(作者)	長さん	……三ページ
	Doyle	……五ページ
	マツタケ	……七ページ
	キウイフルーツ	……九ページ
	田根市役所職員	……十一ページ
受賞者発表		……十四ページ
講評		……十五ページ

◆◆ 小学五年生以上の部 ◆◆

この部で出したのは、架空の町「戸堂布根市」の地図を見て、その町の住人になりきって文章を書くというお題でした。町を舞台にした架空の物語や、日記、エッセイなど、個性あふれる作品がそろいました。

左のQRコードを読み取ると、「戸堂布根市」の地図をご覧ください。ただけですので、まずはそちらをご覧ください。それぞれの力作をお読みください。



私の田根市

長さん(小六)

おはようございます。巢見矢小に通う小学六年の一日を紹介したいと思います。私の通う学校では七時に登校し、一時半に帰ります。私は帰る前に、となりに住んでいる百四十九才のジローさんの家によく行き、ジローさんはあまりうごけないため、ジローさんが飼っている犬のポチの散歩をします。ポチは子どもが好きなので、私が幼いときについていた巢見矢幼稚園に、子供たちと遊びに行きます。ポチが遊んでいる間に、私はおつかいに行きます。今日の晩飯はすき焼きなので、お宮通り商店街の肉の花房で牛肉を買って店長の肉野さんが百9サービスしてくれました。朝、学校に行く前母に「百円で帰るかかしならいいよ」と言われていたので、だかし屋に行きました。いく

と、だがし屋のおばちゃんに「今日は、アメちゃんがオススメだよ」といわれたので、買うことにしました。アメちゃんは一つ二十円なので五こ買いました。その後ポチを迎えに行きジローさんに返します。私には家に帰り、すぐおふろに入って、妹たちと学校の宿題をやりませう。父と母が仕事から帰ってくるので、妹たちと学校の準備をし、今回はお肉を買って、お肉はすぐなくなってしまうので、私たちはおなががいっぱいになります。そしてジローさんとポチは自分の家に帰り、私はあと片付けをして九時にはじまるドラマをみて九時半にねました。

次の日の朝、土曜日なので菊古川きくがわのほうへ遊びに行きます。菊古川までは自転車で行けるので子供とポチだけで行きます。ポチは自転車をこげないので、私のかごにのせていきます。菊古川周辺について

たら市立安江やすえ図書館に、自転車をとめて、いきました。周りを見るとあまり人がいなかったのので、図書館の司書さんにきくと、「菊古川でつり大会が行われているから」といわれたので菊古川にいくとたくさんの方がいました。その中に妹の担任の先生がいて先生が「君たちもやってみたら」といわれたのでやってみることにしました。受付に行き私は「ペットも参加できますか」とたずねると受付の人は「いいですよ」と答えポチも参加することにしました。

つり大会がはじまりました。大会では手づかみで取る人やぼうしで取る人がいました。つり大会が終わり結果発表が行われました。なんと一位はポチでした。ぼちは前に出て市長の往宮むかみさんにメダルをわたされました。つり大会でよごれたので、近くの灯り湯あかりゆにつかっから、家に帰りました。

休日のある一日の物語

Doyle (中一)

あつ、やばい！ 追いつかれる、どうしよう！ もうそろそろ足が限界なんだけど…。あつ、もうムリだ！ えっ夢？ あーなんだ夢だった

のか。もう、ほんとにびっくりしたわ。あつ、みなさんおはよう！ 私はこの田根市に住む中学一年の竹中ヒロです！ 家は国道522号線の北側の墨屋駅すみやの右どなりの場所にあつて、高校一年の兄、父、母の4人暮らし。ちょっとはなれた場所の老人ホームにおじいちゃんとおばあちゃんが暮らしているんだ。そして私が通っている中学校が市立巢見矢中学校。あつ、ちなみに小学校も同じ所の巢見矢小だったんだよ。私はこういう感じ。みんなよろしくね。

さてと、今日の一日のスケジュールを説明するよ。今は1月の末で

ものすごく寒いけど元気に外に出るよ。えっとまず、今日は土曜日
で学校はないから最初にやしろ公園で遊んで、そのあと菊古川の向
こうの水辺の生き物館に行つて、午後はまたその時にやりたいこと
を考えてする。まあだいたいこんな感じ。今日はたくさん遊ぶからま
だ朝の6時だし朝勉しよつと。

はあ、やっと朝勉終わった。もう8時だよ、ほんとに。さてと、い
つも土曜日は朝8時にオープンする後藤。パンに買いに行くんだよ。じ
や、自転車で行つてくるね。

ふう。やっぱ1月の末の朝つてめっちゃ寒いよね。あそこのおばち
やん、朝早くに来てくれたからつてあんパンコおまけしてくれた。ラ
ッキー。さあ、家族みんなで食べるよ。

あ、おいしかった。よし、もう9時だからさつそく遊びにいくつと。

チャリン。チャリン。いまはやしろ公園に向かっています。もうすぐ着くよ。

よし、着いた。あれ？、あの人ちまきちゃん？ ちまきちゃんだ！
あの子はちまきちゃんっていう子で、学校の友だちだよ。なんかちまきちゃんも遊びに来たっぽいからいっしょにあそんでよつと。

ふあゝ。たくさん遊んだわ。ブランコも鉄棒もすべり台もぜんぶキッキングに冷えててめっちゃ冷たかったけど楽しかったよ。じゃあ、次はちょっと遠いけど水辺の生き物館にいこう！

あゝやつぱりすごいなあゝ。あつこめん、みとれちゃってここがどんな施設か話すのを忘れてた。さっきの公園からだいたい20分くらいでついて、チケットは大人料金で850円はらって今クラゲのコーナーの所を見るんだ。月一回くらいで来るお気に入りの場所で、いつ来てもおもしろいんだ。向こうの目玉コーナーには20mのサメがい

てそこもおもしろいけど、実は小さいコーナーの所の方が人も少ないし、楽しいんだよ。いま、何時くらいだろ？ あつ、ー時か。よし、だったら目玉のコーナーもまあまあおもしろいからそこ見て、ほかのお気に入りのところ見ておみやげ買ってかえろつと。

さーと、ひと通り見たからおみやげコーナーに来たよ。えゝと、どれにしようかなゝ。よく来るんだけどおみやげは買わないから今日は特別に。じゃ、このラッコまんじゅうにしよう。

えーつと、今おみやげも買いおわって家に帰ってるとこなんだけどね。さっきちょっと橋のところでころんじやつて。まあまあ強くひざ打っただけで、優しいおねえさんがバンソーコーくれて助けてくれたんだ。ほんつとに助かったんだよね。でもね、実はその優しいおねえさんって、この前、その人がスーパースーパーのものたくさん落として困っていた所を私が拾うの手伝ってあげた人なんだ。いやーまさかこんな所でこっ

ちが助けてもらうとは思ってもいなかったわ。助けてあげると自分もいつかは助けてもらえるんだね。ほんと、人が困ってたら助けてあげるのが大事っていう意味がよくわかったよ。じゃ、もうそろそろ終わりにしますか。ありがとう、じゃあね。

暗号にかくされたキーワードは？

マツタケ(中一)

僕は戸堂布景田根市の後藤、パンの一人息子の高校生、後藤光だ。

僕は家から徒歩二十分かかる城桐大学附属高校に通っている高校

二年生だ。僕は野球部に所属しており、ポジションはピッチャーだ。そ

して勉強はそこそこであり、ほぼ平均をとっている。以上が僕の紹介

だ。

今日、八月二十八日、家へ帰りポストを見てみると僕宛の手紙が来ていた。その手紙の内容はこうだ。「今日から一ヶ月の内、どこかで事件が起こる。覚悟しておけ。ただし、この内容は誰にも言ってはならない。そこで暗号を教えよう。場所の暗号は、『巢見矢神社の多くの大人が飲む飲み物を作り、立方体の辺を水で作った、さらに小さい子どもを育成する病院に近い場所に、頭が良いを名前に入れた』これが場所の暗号だ。解けるものなら解いてみる」

僕はこの手紙を見てびっくりした。まずは落ち着こう。そう思った僕は、いったん暗号を解いてみることにした。初めにピンときたのは「小さい子どもを育成する場」だ。子どもを育成させるのは保育園か小学校だろう。だが、そこには小さいと書いてある。ならば保育園だろう。そして僕は地図に目を通してみることにした。そうすると、

保育園は三つあった。まず、それに印をつけてみた。そして、次の暗号に取りかかろうとする。だが、母親にご飯だと呼ばれてしまった。だから次の暗号は明日解こう、と思つて食卓についた。そして翌日、僕は、暗号を解くことにした。次に解こうとした暗号は「頭が良いを名前に入れた」である。僕は、これならできる、と思つてこの町の地図全体に目を通してみた。だがしかし頭が良いなどと書いた場所は無かつた。もうすぐ習い事の時間だ。そう思つて僕は用意をした。

僕は習い事の場合、進学教室エリートみかみ巳神北校に着いてふと思つた。エリートという言葉、外来語だな。日本語になおす又何だろう？ ちよつと僕は英語が苦手であつたため、単語帳を持っていた。調べてみると、頭の良い、優れたと出てきた。走つて家に帰つて進学教室エリート巳神北校がある場所に印をつけた。残る暗号はあと二つ。そう思つた僕は、さつそく明日、残りの暗号に取り組むことにして、

ご飯を食べて寝た。だが、ここからの暗号が今までは違ひ、とても難解であることを僕は知らなかつた。そして翌日、学校から帰ると、さつそく「立方体の辺を水で作る」という暗号にとりかかる。この暗号はやっかいなものだつた。水の辺をつかつた立方体を、頭の中で想像してみるけれど、それと関係したことは、これっぽちみつからない。どうしようと頭がさわぎ、僕は水の辺という言葉をくり返してみた。そうすると言い間違えて「みずへ」といつてしまう。ここで僕はピンときた。「みずへ」このことは「へ」に濁点をつけるとどうだろう。「みずべ」という言葉になる。この言葉を地図で探してみるとみずべ公園という場所に印をつけた。これで残る暗号はあと一つ。そう思い僕は、もう一つの暗号について考えてみることにした。「単見矢神社の多くの大人が飲む飲み物を作り」の中で、ピンとくるのは「多くの大人が飲む飲み物」だ。これはおそらく酒だろう。酒までは分かつたが単見

矢神社がひっかかった。神社と酒の関係性が分からない。神社を辞書

で引く。そうすると、神社には別の言い方「やしろ」があるのを知った。やしろの酒を作る、この場所は地図を見なくても分かった。「矢白酒造センター」だ。これで四つの暗号がすべて解けた。僕は安心して、寝てしまった。朝になっていた。手紙が来ていた。その手紙には、「暗号の場所を全て曲線で結べ。その結んだ形に似ている地図記号の本店に、九月十日十二時に来い」これを見て僕は何通りか試してみた。そして出来た記号は銀行の記号だった。このあと何がおこるんだろう？僕はそう思いドキドキしながら、学校生活を送った。

戻らない時間

キウイフルーツ(中二)

僕は市立巢見^{すみや}矢小学校に通う小学六年生。僕の学級では、月に一回、作文を書く授業がある。今月のテーマは「入学前を振り返ろう」で、僕は自分の幼稚園児の時を書こうと思っている。

僕は小学校のすぐ前にある市立すみや幼稚園に通っていた。この幼稚園は人通りがたえないお宮通り^{みややち}商店街の横にあるので、幼稚園が終わるお昼時にはザワザワとにぎわっていたのを覚えている。僕の園児生活は月曜日から日曜日まである程度のルーティーンがあった。でも、その時の自分には一日一日がとつもなく長く感じられ、たくさんの新しい事に毎日出会っていた。例えば、月曜日。僕はいつも一番早くに幼稚園についていた。お父さん、お母さんの仕事の関係でいつもより三十分早くついていたのだ。二人は一緒に矢白酒造^{やしろぞう}醸造センターで働いている。月曜だけは朝早くからお米を作る農家さん

との大事なお話があったみたい。でも、朝は早く行くかわりに、幼稚園が終わる三時には迎えに来てくれていた。その後は大体、お宮通り商店街に行って買い物をした。菊古川の河川敷沿いの住宅地に住んでいたのので近くにスーパーも無く、この商店街での買い物は一つの楽しみでもあった。

火曜日。この日は月曜日よりはゆったりとした朝を送ることができた。また三時に迎えにきてもらうと、いつも太田楽器に向かった。

ここでは僕が三歳の頃からバイオリンを習っている。一回の授業が二時間と、当時の僕には少しキツかったのを覚えているが、そのおかげで今では月に一回、田根市民ホールで演奏をさせてもらっている。その習い事が終わるともうご飯の時間だった。お父さんもこの日は仕事を早く終わり合流して、よく外でご飯を食べた。僕のおすすめはカレーステーション墨屋店。ここのカレーはとびっきりうまい。ぜひ一

度食べてみてほしい。

水曜日にはよくみこし公園で遊んだ。幼稚園が終わると、友達のお母さんが僕達を公園までつれてきてくれた。僕のお母さんは仕事で来ることはほぼなかった。名前のついていない遊びをたくさんして、汗だくになるまで遊んだ。帰りは、両親が待っている酒造センターまで車で連れていってもらう。二人に会える時がとてうれしかった。

木曜日は僕が一番嫌いな日だった。朝は月曜日のように早い。それだけならいいのに、帰りも遅く、幼稚園が終わったら、預かり保育に預けられる。僕はどうしても、この預かり保育が嫌いだった。自由に遊べて、おやつももらえる、一見最高の時間だが、それよりも僕は早く帰りたいかった。早く親に会いたかったのだと思う。お迎えが来て、先生に呼ばれた時はとてもうれしかったのを覚えている。

金曜日。この日のメインは習い事の野球。家の近くにある市立火

借運動公園で少年野球をしていた。幼稚園が終わると、お母さんがそこまで送ってくれ、野球の練習風景はいつも見てくれていた。当時、自分のわがままで入ったチームでは、僕は年長ということもあり、まわりのみんなと比べて小柄であったために心配してくれていたのだと思う。

土曜日。この日はお母さん、お父さんは朝だけ仕事があった。昼から、みんなでおでかけすることができる日だった。次の日の日曜日は二人ともお休みの日で朝からおでかけをすることがよくあった。土曜日には、墨屋ショッピングガーデンや県立巳神城址公園みかたしろといった田根市の娯楽施設でよく楽しんだ。でも日曜日にはよく隣の町や県まで行ったことを覚えている。僕にとってこの土曜日、日曜日は特別な二日間であった。たくさん話し、たくさん笑い、ときには泣いたりもした。あの頃はあつという間に過ぎた。どこか、懐かしく、齒がゆい

気持ちになる。幼かった時の自分、両親と過ごした時間の大切さに気づく。だからこそこの瞬間を大切に生きようと思えるのである。

田根市まちづくり 路線バス運行計画

田根市役所職員(中三)

田根市の職員である私、田島たしまはある日、市長に呼び出された。自分がなにかやらかしたのかと思いつつながら恐る恐る市長室に入ると、一枚の紙を渡された。そこには、今までこの市になくて、市民からの要望が多かったバスを市内に通すという計画が書かれていた。市長が私に伝えたかったことは、この計画の実行委員長になってほしいということだった。私はそれを聞いたときにとっても安心した。なぜなら、

これまで私の元に市民からのいろいろな要望が送られてきていたのだが、バスを市内に通してほしいという意見がとて多かつたからだ。私はその計画書を笑顔で受け取った。

私はまずその計画書の中にかいてあるルートを実際に車で走行し、危険などがないかを隅々まで調べた。計画上、バスは2路線走ることになっており、墨屋駅すみやを起点とし、大学や田根高校たね、市役所などをまわって駅に帰ってくる巳神城址線みかみじょうしと、墨屋駅を起点とし、安江三丁目やすえなどの菊古川沿いきくがわを通り、火借天満宮ひかりてんまんぐう、ショッピングガーデンを経由し駅に帰ってくる菊古川線があった。私の頭の中でバス停をおいて確かめもした。そこでいくつか問題点がでてきた。

まず菊古川線において、大通りから曲がって川沿いの道に入るとき、とても道が狭く、バスがそのルートにあるバス停に停車した場合対向車両が通れないということが発覚した。また、駅前にバス停を

作るのはよいが、すべてのバスがそこに集中するのは渋滞の原因になると予想された。

そこで計画表に書いてあったルートをこれらのような問題点から訂正をした。菊古川線については、最初、スーパーHESAKIの安江店の角を曲がり小学校の前を走行し公園のバス停に止まって国道522号線に出てくる計画だったが、それよりも2本奥の道を通っていく計画にした。となるとその道も状況が曖昧あいまいだったので確認が必要になり、そこへ行ってみたのだが、またここで新たな問題があった。

計画を練り直して決めたその道は一方通行であり、予定方向と逆向きに進まなければいけない道であった。さてどうしようかと思っただけに私に名案が頭の中に浮かんだ。それは元々計画書にあったルートを走行し、そのルートで計画していたバス停をなくしてバスがその道に停車しなくてもいいようにするというものだった。また、安江第二

小の近くでもあるその道はスクールゾーンに含まれることから、私はそこにグリーンベルトとラバーポールを設置し、そこを通るバスの制限速度を時速30kmとすることにした。

そして二つ目の問題であった、駅前にバスを集中させると渋滞がおこるといふ問題で一番的確な解決策だと思ったのは、駅前のバス停に巳神城址線のみを通すということだった。菊古川線はこの駅前を經由せず、国道426線をそのまま突っ切るといふようにした。もし駅前にある停留所から菊古川線へのバスに乗り継ぐ場合は、次の停留所である商店街東で乗り換えるようにした。これで一通り路線とバス停の問題は解消されたと思つた。

次に、バスの運転士をどうするかということがある。これは私の中で決めており、最初に市の職員の中で募集をかけ、一定数集まらなければ公募をかけるというものだった。計画では20人を集める予

定だったが、自分はそれでは足りないと思ひ30人を募集した。しかし思つていたより人は集まらず、公募をかけることになった。現在募集をかけている途中だが、想定人数の倍以上が応募している。またそこでもいろいろな問題がでてきそうな感じがしなくもない。だが私はどんな問題が出てこようとも、市民の期待を背負っていると思つて今日もバスを市内に通すために頑張っている。

◆ ◆
受賞者発表
◆ ◆

【佳作】

Z (小学三～四年生の部)

たつくん (小学三～四年生の部)

いちご (小学五年生以上の部)

長さん (小学五年生以上の部)

今回は、小学三～四年生の部から二作品、小学五年生以上の部から四作品が佳作対象となりました。そしてその六作品のなかで

すぐれている三作品を優秀作品とし、さらにそのなかの一作品を

大賞として選出しました。

【優秀作品】

だいこん (小学三～四年生の部)

田根市役所職員 (小学五年生以上の部)

※今回は当初の予定から変更して、山分のみ審査となりました。

【大賞】

キウイフルーツ (小学五年生以上の部)

◆ ◆ 講評 ◆ ◆
こうひょう

小学三〜四年生の部では、自分のお気に入りの場所をしようかというお題でしたが、ただ「わたしのお気に入りの場所は〇〇です。」というだけではなく、その場所のことをくわしくつたえたり、そこにいるときの気分をしつかり言葉にしたりすることをがんばってもらいました。

「だいきんくん」さんの作品は、そのつたえ方がとても良かったと思います。特に書き出しです。一見、気に入っている場所のことを話していないかのようにでしたが、あとできちんと気に入っている場所のことだと分かる組み立て方になっています。それが他の作品にはない長所でした。

また、もう一つこのお題でみなさんに気をつけてもらいたいことがありました。それは、「意味のない理由」を書こうとしない、ということ

とです。子どもたちが文章を書くと、理由がひつようでないときも「なぜなら〜からです」という部分をつくってしまうとか、「なぜなら」のあとにつづく部分が理由になっていないといった場合がよくあります。特に、今回のお題のような、自分の好きなものをしようかいうるとき、「なぜ好きなのか」など言えないことが多くあります。「好き」という気持ちになるのに、何か理由があるわけではないことの方が多いからです。

その点で、「Z」さんはとてもがんばりました。何度も「意味のない理由」を書いていることを私が指摘して書き直しさせましたが、最終的にはよい文章になりました。

また、その反対に「意味のある理由」をしぜんに書けたのが「たっくん」さんでした。自分の部屋を気に入っている理由として木のおおりがするということを書いてくれましたが、これは無理やり入れら

れている感じがせず、書かれることがひつようだと思わせるものでした。自分の「好き」を正しくとらえることができているからこそ、このように書けたのだと思います。

小学五年生以上の部は、まずは「戸堂布田根市」という架空の町を、またそこに生きる人々を、どれほど具体的に想像できるかということが課題でした。

その点で抜群はくぐんの作品を仕上げてくれたのが「キウイフルーツ」さんでした。おそらく、この作品は「キウイフルーツ」さん自身の幼少期の体験も反映されているのではないかと思います。それでいながら、この町に住む少年やその家族を生き生きと、現実感をもたせるかたちで浮かび上がらせることに成功しているのが非常によかったです。

一方、このお題は社会的な観点ももっており、地図を生かすことや、この町の地理や歴史や産業などの社会的特質に思いをはせるといふことも期待して私はこのお題を制作しています。

その観点で最もよくやってくれたと思うのが「田根市役所職員」さんでした。実は、「キウイフルーツ」さんの作品とどちらが大賞にふさわしいか、最後まで悩みました。表現の面白いという点で「キウイフルーツ」さんに軍配を上げましたが、「田根市役所職員」さんの作品は限りなく大賞に近い作品だと私は思っています。

最後に、「いちご」さんと「長さん」さんの作品は、純粹じゆんずいに楽しい物語が作れたという点で評価をしました。「いちご」さんは特に、地文の中によい表現がいくつも見られたのが目を引きました。「長さん」の作品の独特な雰囲気ふんいきは、挿絵さしえをつけて絵本にしたら映える文章になりそうです。（山分大史）